

県測量設計コンサルタント協会

多くの家族が稲佐山で測量体験

技術者とふれあい関心深める



今年もイベント大成功！



(一社)長崎県測量設計コンサルタント協会(吉川國夫会長)が7日、測量の日イベント『稲佐山をはかろう！』を稲佐山公園野外音楽堂と芝生広場で開催した。約40人の家族が参加したイベントは、会員技術者と子どもたちの笑顔で溢れ、測量について楽しく学び関心を深める日となった。

はじめに、野外音楽堂で開かれた講演会では、土木伝道師のデミィ博士(出水享氏、長崎大学)と高校生防災士の出水琉さんがそれぞれマイクを握った。デミィ博士の「なぜ測るといふ仕事があるのかという問いに対し、子どもたちは「道をつくるため!」と元気よく回答。その答

えを補うようにデミィ博士は、道路や橋梁整備における▽計画▽測量設計▽施工▽完成までの流れを分かりやすく解説した。最後に「まちは多くの人のチームワーク、さらに、たくさん技術者がバトンをつなぐことでできている」と子どもたちに伝えた。技術者の一つとして国家資格を持つ協会会員を紹介した。

続けて、講師デビューとなる高校生の出水さんは、『橋について』と題して講演した。昨年度、県内最年少で防災士を取得した出水さんは、子どもたちに土木の魅力発信しようとして日本と橋の歴史、県内を代表する橋などを紹介し「橋には歴史や文化、当時の最先端技術が詰まっている。皆さんも是非、そのような背景に注目して見てほしい」と勧めた。

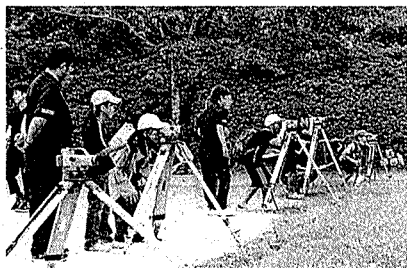
その後、心地よい風が吹く芝生広場に移動した参加者は、5つの測量体験ブース(歩測・光波・水準・平板・ドローン)を順に巡った。このうち、歩測ブースでは参加者自身の歩幅で50歩を当てるゲームを通して、測量機器の速さと正確さを体感した。また、水準測量では真剣な表情でレベルを覗き込み、数センチ離れたキャラクターへ



▲講演に立った出水親子

焦点を当てた。さらに、平板測量やドローン体験では、それぞれのタブレット画面に映し出された絵や映像に目が釘付けになる親子も。参加者は楽しく測量について学び、進化する機器とそれらを巧みに操る技術者へ称賛のまなざしを向けた。

▲水準測量に集中する参加者



太平洋技研(株)▽長崎測量設計(株)▽藤測量設計(株)▽オリエンタアイエヌジー(株)▽PAL構造▽タモサンドローン(同)▽出水享▽出水琉